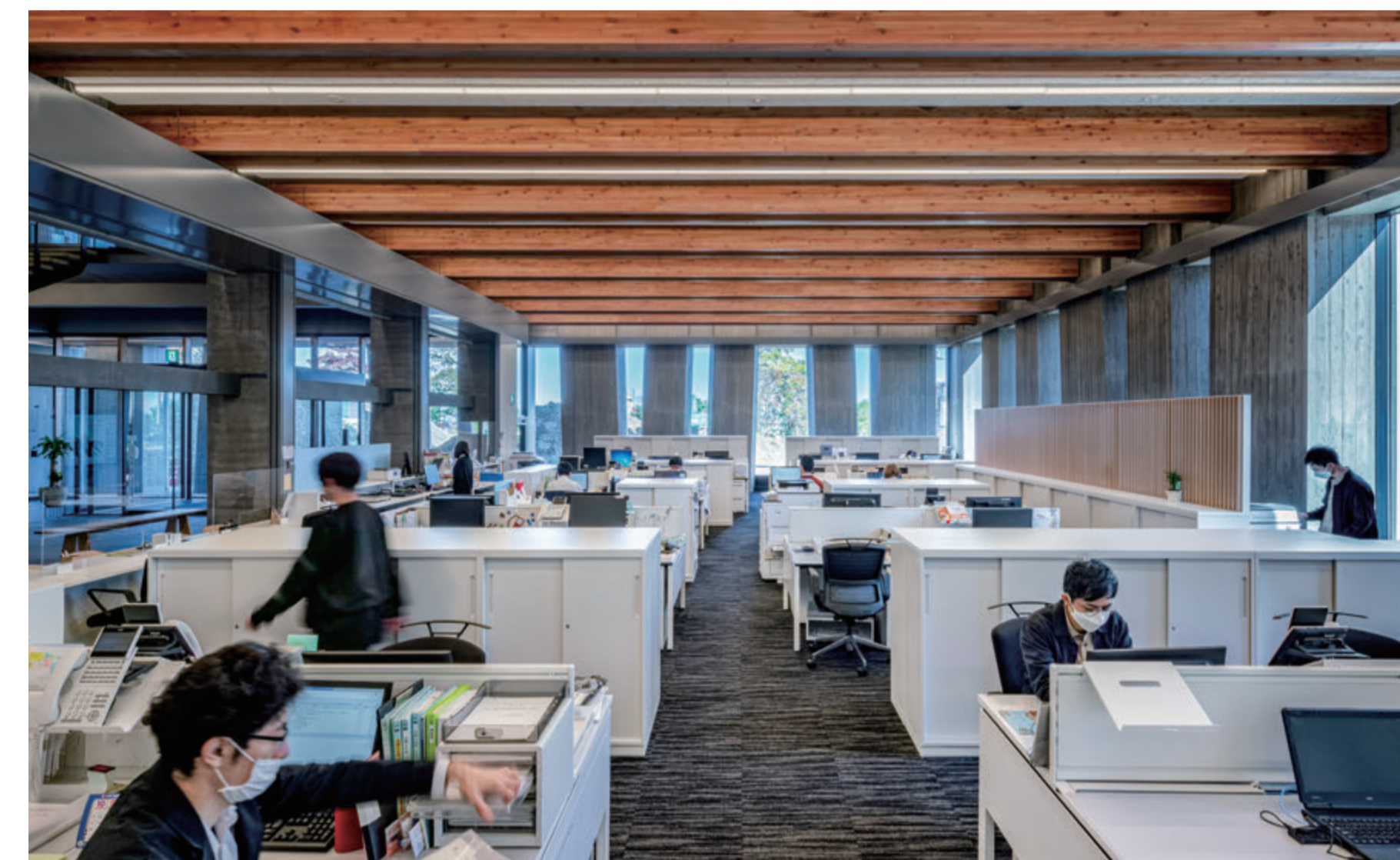
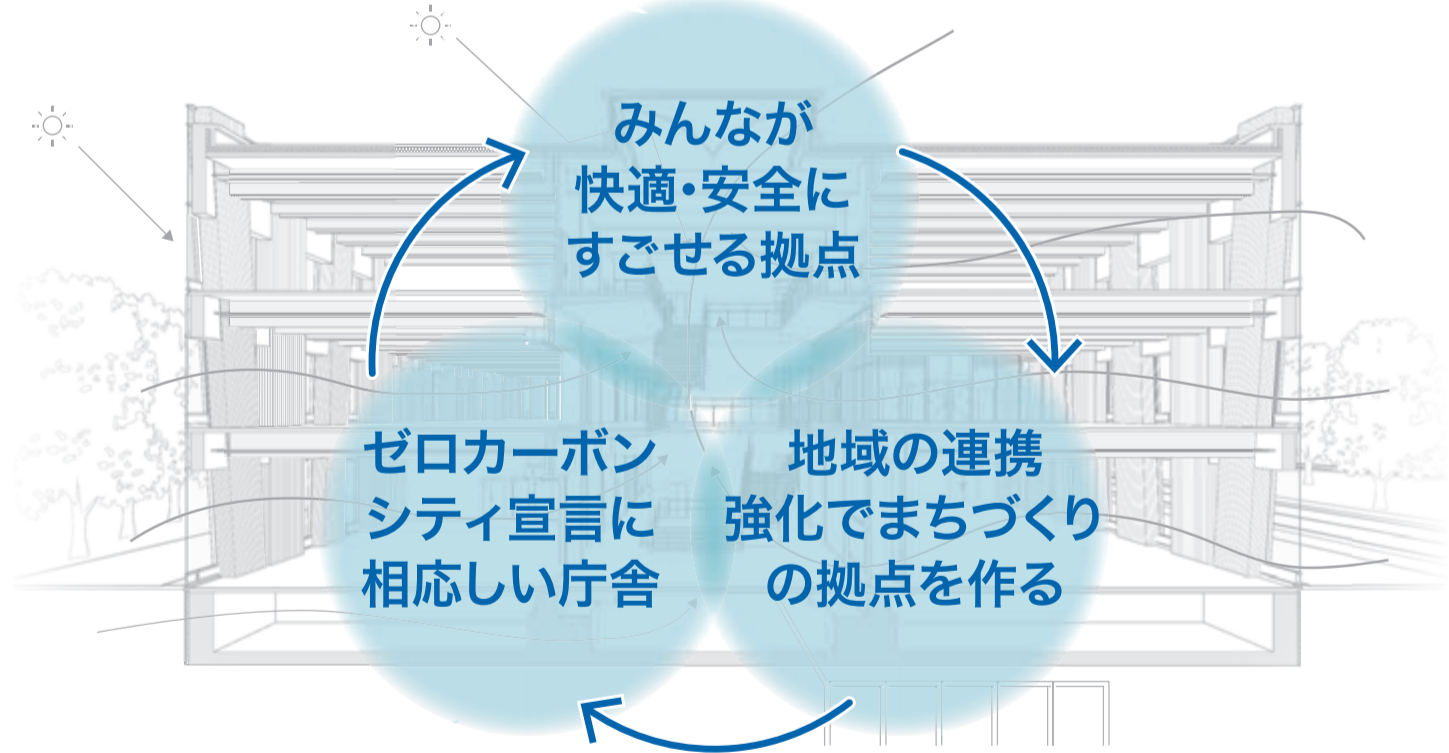


国土交通大臣賞

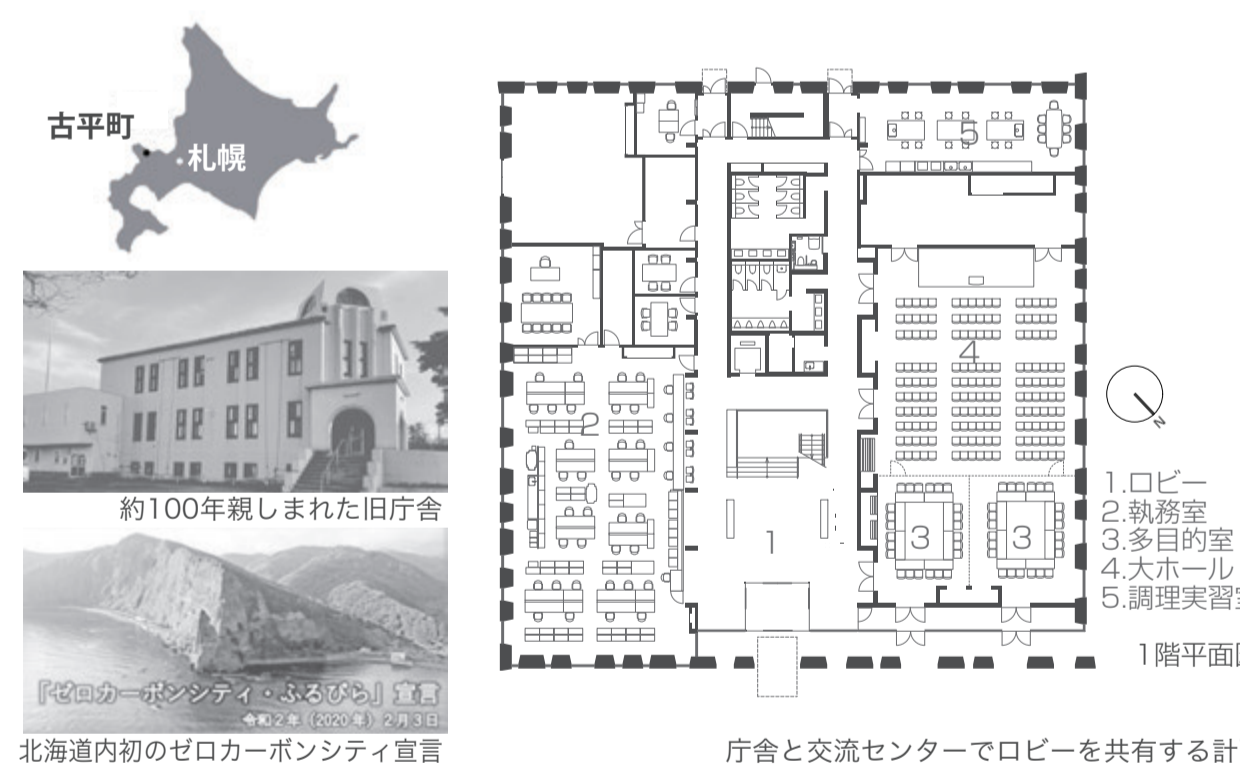
古平町複合施設 かなえーる



全体コンセプト
旧庁舎のように100年使われ続ける建物となるように、町民にとって快適・安全・健康な場所を作った。これにより、町民が集まり地域コミュニティの活動の拠点として、学び続けられる。さらに建物の先進的な取り組みがカーボンニュートラル社会に寄与することで、町民が主体となって利用する自慢の施設を目指した。



北海道の古平町に、約100年使われてきた旧庁舎を建替え、庁舎と交流センターの複合施設を建設した。古平町は年間で半分近くが雪に覆われる厳しい気候の中で、ゼロカーボンシティ宣言を行って地球環境保全に先駆的に取組む町である。次の100年への持続可能なまちづくりに向け、人と地球に優しい建築を目指した。



みんなが快適・安全にすごせる拠点

- 来館者全員をいつでも温かく迎える快適・安全な場所
 - 温熱環境を安定させる外断熱で包まれたRC現しの建物
 - 壁柱躯体輻射冷暖房で寒冷地の窓際に温かい居場所をつくる
 - 水害に強く耐震性の高い防災拠点
- 地域の文化や産品を広める町自慢の観光拠点
 - 執務室内の木梁であたたかみのある内装
 - 漁業が盛んな地域を象徴させる照明デザイン
 - 大きな窓からの眺望と採光、自然通風

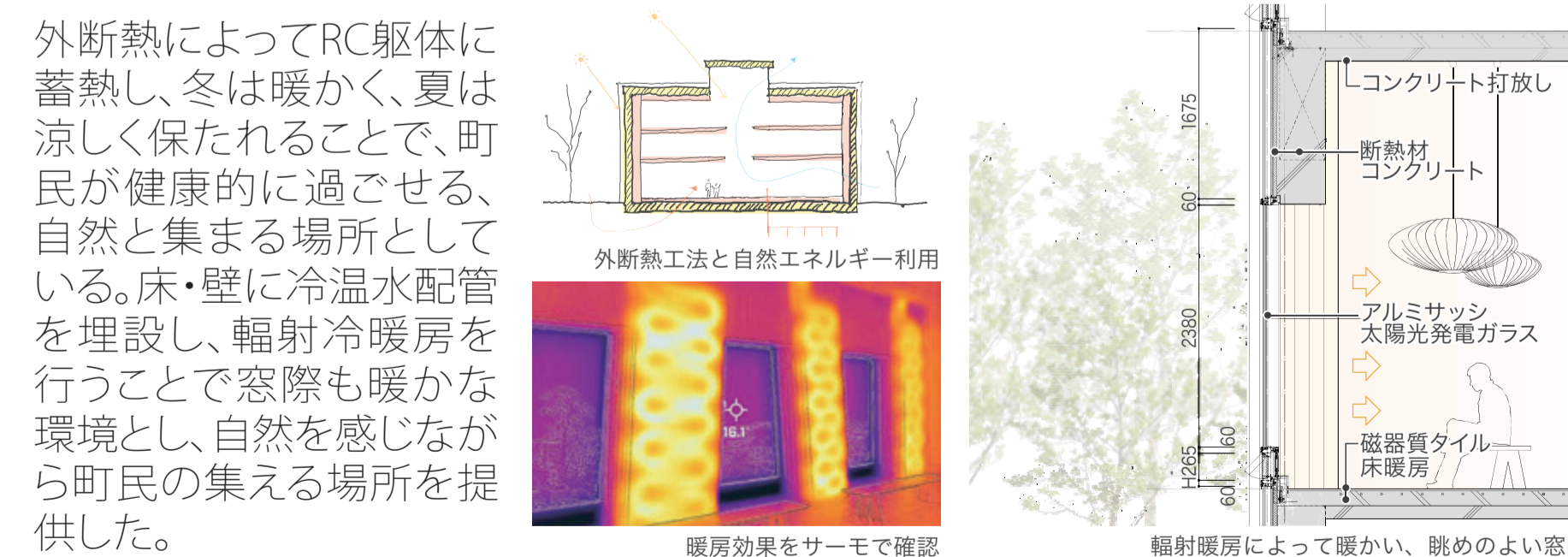
地域の連携強化でまちづくりの拠点を作る

- 全員参加型で地域に根差した施設をつくり続ける
 - エネルギーサポートで施設運用をサポート
 - 町の負担を減らし先進的な施設をつくる
 - エネルギーキャリアンで町の取り組みを地域と世界に発信
- 地域参加を促し、みんなで学べる交流拠点
 - 町民の想いを残してコミュニティを育てる
 - 地域の大学生との共同設計による地域防災センター

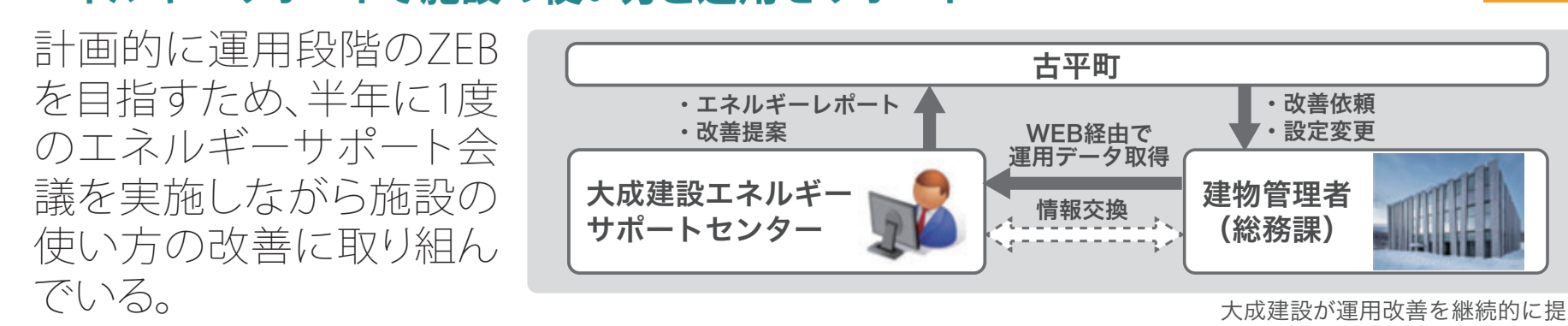
ゼロカーボンシティ宣言に相応しい庁舎

- 廃棄物を削減しながら心地よい木質空間を実現
 - 集成材を型枠利用し廃棄物を削減する木RC梁
 - アップサイクルしたホルダー天井
- 寒冷地ならではのエネルギー利用でNearly ZEBを達成
 - 継続的にNearly ZEBの運用を達成
 - 寒冷地において有効な地中熱を積極活用
 - 眺めと発電を両立する太陽光発電ガラス

来館者全員をいつでも温かく迎える快適・安全な場所
外断熱RC打放しの構造体を利用した壁柱輻射冷暖房



全員参加型で地域に根差した施設をつくり続ける
エネルギーサポートで施設の使い方と運用をサポート



地域参加を促しみんなで学べる交流拠点
町民の想いを残してコミュニティを育てる

建設段階から地域の子供達が参加するワークショップを開催し、愛着を持ち続けられる施設づくりを目指した。



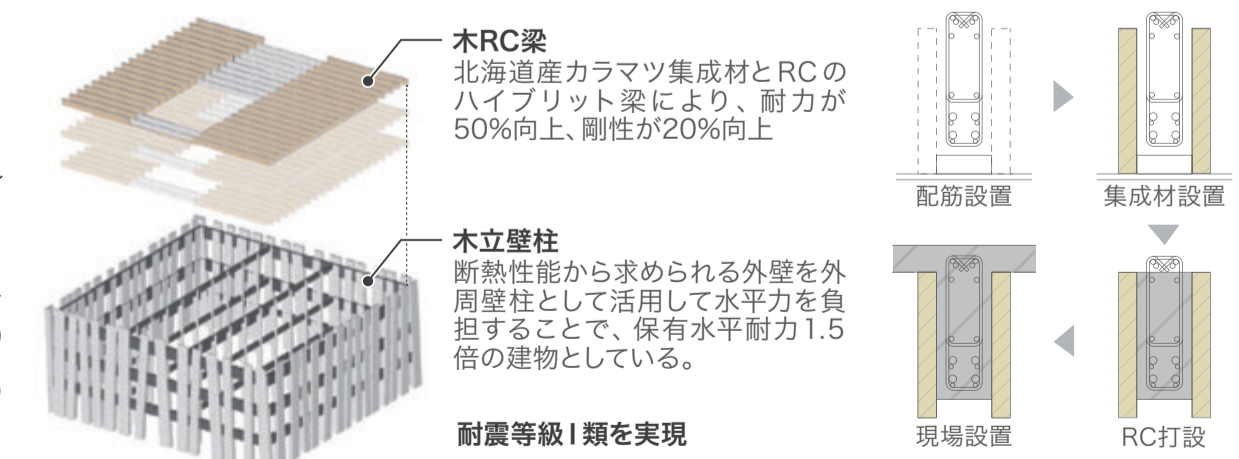
多様なイベントにより町民とつながる庁舎

省エネや創エネの取り組みを知ってもらうための活動やバリアフリー教室、お祭り等イベントでの施設利用を通して、古平町の魅力や取組みを広く発信している。



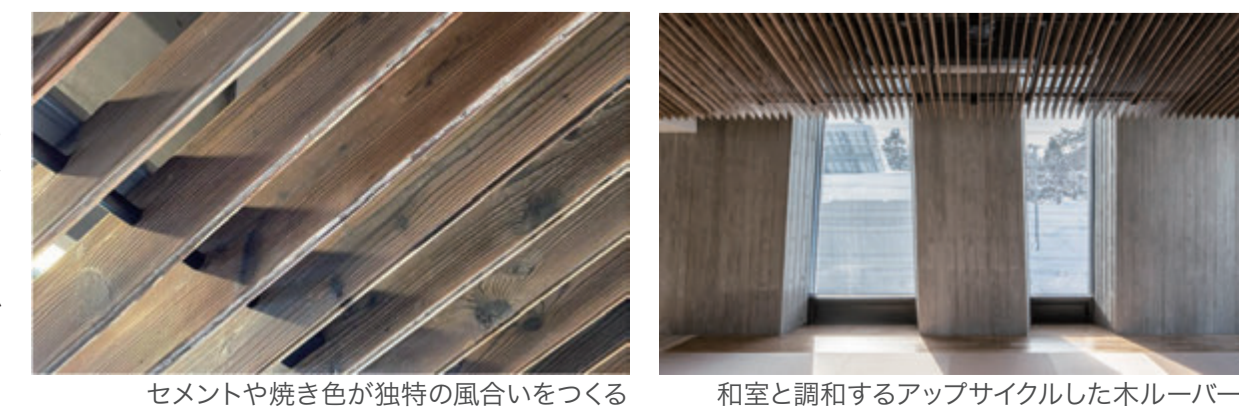
廃棄物を削減しながら心地よい木質空間を実現
集成材を型枠利用し廃棄物を削減する木RC梁

集成材を型枠として利用してRCを打設することで、通常は使用後に廃棄される型枠を大幅に削減した。カラマツ集成材をRC梁と一体化することで、建物の耐震性能を向上させつつCO2を146トン固定した。



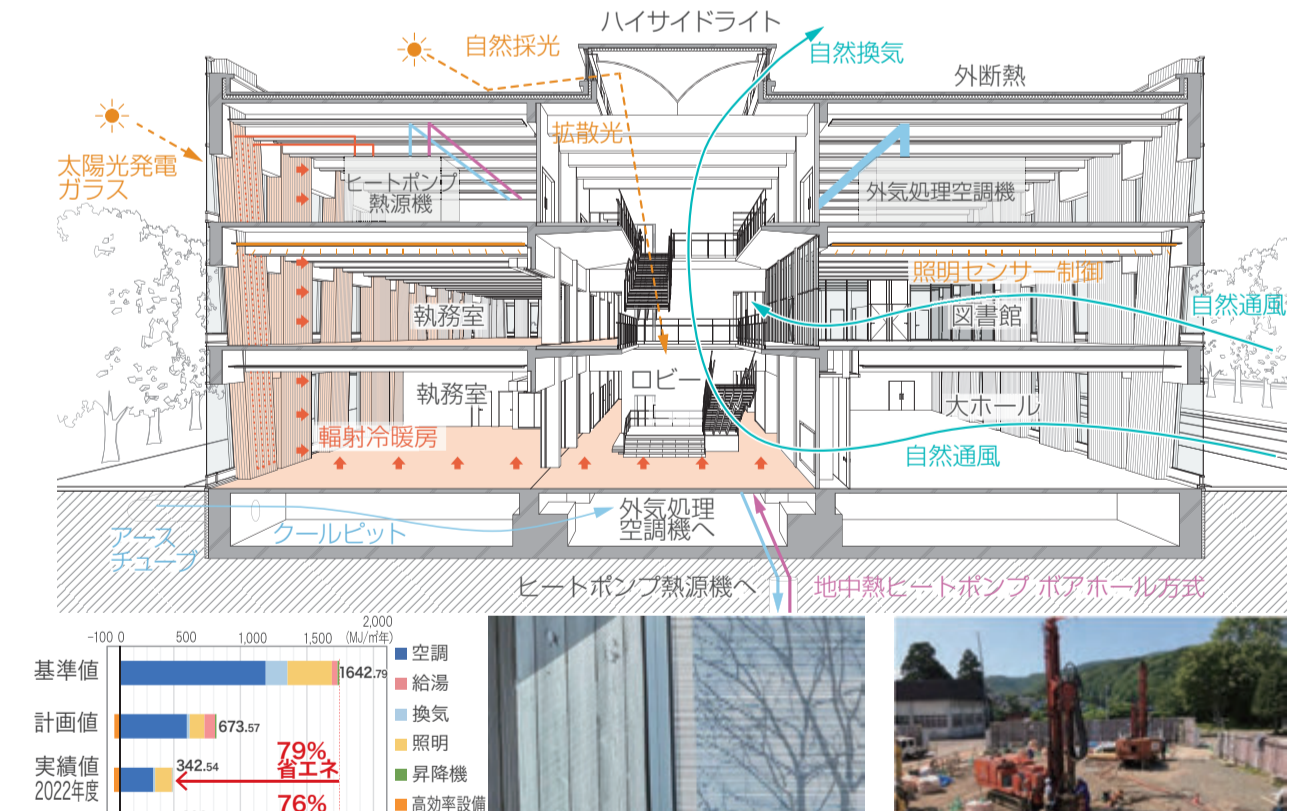
アップサイクルしたホルダー天井

型枠使用時の焼き色や付着固定化したセメントをそのままホルダーに使用した。和室の天井として使用することで、使用後の風合いを活かした内装デザインとした。



寒冷地ならではのエネルギー利用でNearly ZEBを達成
2年連続で75%以上の省エネ実績

計画段階では北海道公共施設で初のZEBReadyのBELS認証を取得した。一方で計算には反映されにくい寒冷地に適した計画を各所で行うことで、運用段階において75%以上省エネのNearly ZEBを2年連続達成した。開口部に設けた透過性のある太陽光発電ガラスや躯体蓄熱、地中熱利用等、寒冷地の地域特性に合わせた設備計画としている。



建築主 : 古平町
設計者 : 大成建設株式会社一級建築士事務所
施工者 : 大成建設株式会社札幌支店
所在地 : 北海道古平郡古平町大字浜町50番地
構造 : 鉄筋コンクリート造一部 鉄骨鉄筋コンクリート造
階数 : 3階建
延べ面積 : 3,887.03 m²
竣工年月日 : 2022年2月10日

